

令和 5 年度
京都府訪問看護総合支援センター
事業報告書

公益社団法人 京都府看護協会

目次

1 年間計画	1
2 事業所経営支援	
1)事業所相談	1
2)第1回事業所運営支援研修	3
3)第2回事業所運営支援研修	6
4)訪問看護事業所交流会	10
3 人材確保	
1)看護学生対象訪問看護入門研修	12
2)看護学生の訪問看護1日職場体験	14
4 訪問看護の質向上	
1)訪問看護運営QA集作成(資料1)	27
2)訪問看護師の学習支援一覧(京都府版)作成(資料2)	27
5 会議	
1)訪問看護総合支援センター運営会議	27
2)訪問看護総合支援センター連絡会議	28
6 資料	
資料1)訪問看護運営Q & A(別ページへ移動)	
資料2)訪問看護師の学習支援一覧(京都府版)	45
資料3)公益社団法人京都府看護協会京都府訪問看護総合支援センター設置要綱	47
資料4)公益社団法人京都府看護協会京都府訪問看護総合支援センター運営会議開催要領	48

1 年間計画

令和5年度 訪問看護総合支援センター 年間計画														
目的	機能	事業名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
運営・経営支援	事業所運営基盤整備	訪問看護総合支援センター運営会議					運営会議							運営会議
		訪問看護総合支援センター連絡会議			連絡会議				連絡会議			連絡会議		
		事業所向け相談窓口事業	通年（月～木 9時から17時）											
		事業所運営支援研修					事業開始		研修		事業開始		研修	
		訪問看護事業所向け運営交流会							事業開始		交流会			
人材確保	新卒看護師採用に向けた取り組み	看護学生対象訪問看護入門研修		事業開始			研修							
		看護学生の訪問看護1日職場体験		事業開始	マッチング	体験	体験	体験						
訪問看護の質の向上	訪問看護師生涯学習支援	訪問看護師生涯学習支援体制整備			協議				協議			協議		

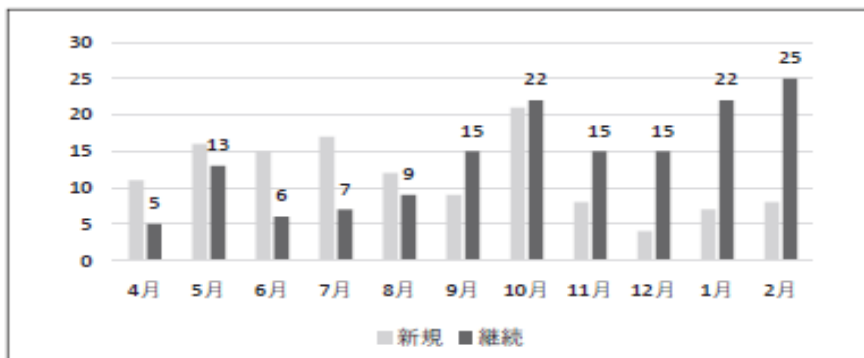
2 事業所経営支援

1) 事業所相談（2023年4月～2月29日）

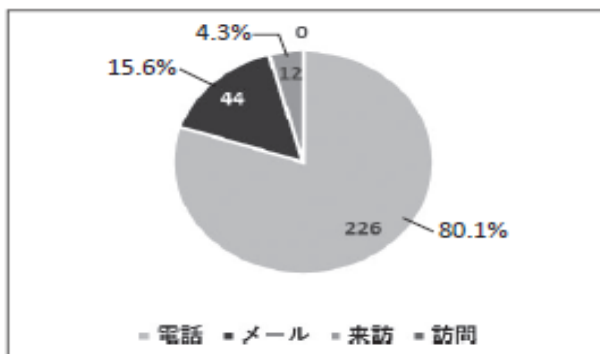
- (1) 相談日数 172日
- (2) 相談件数 282件（のべ件数）

* 事業所向け相談事業265件、くらしあんしん療養相談17件

* 新規 128件 継続 154件（リピート率 54.0%）

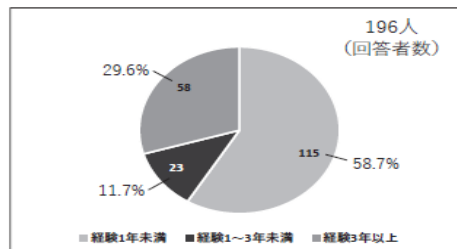
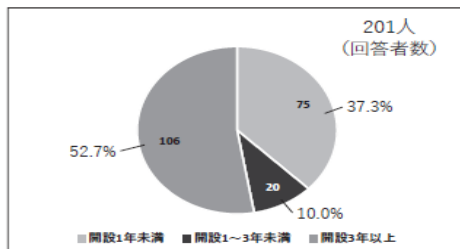
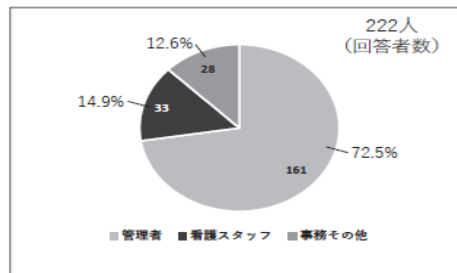
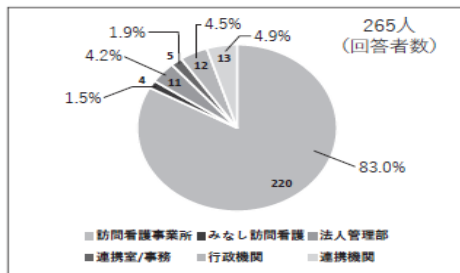


(3) 相談方法 282件（のべ件数）

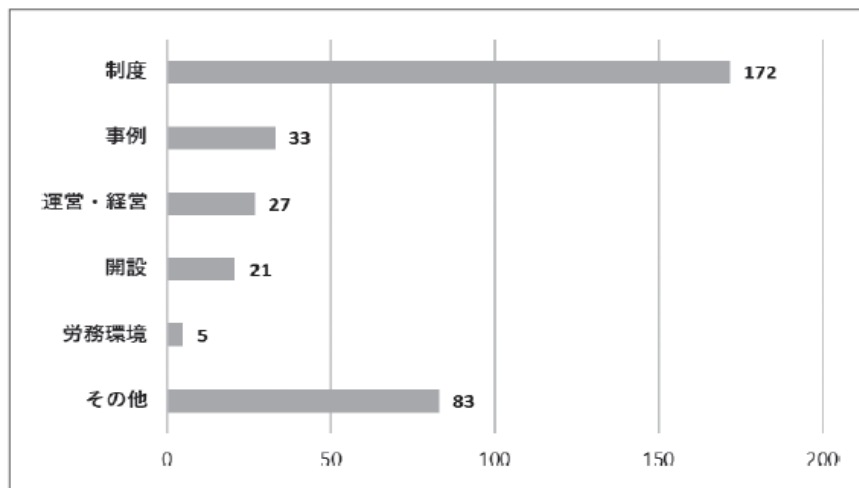


(4) 相談者の内訳 282人 (のべ人数)

*会員 42%、非会員 56%、その他 2%



(5) 相談内容 341件 (重複相談あり)



2) 第1 回事業所運営支援研修

目的 訪問看護の管理者および職員が労務管理を学ぶことで、
安定的な事業所運営に繋げる

- (1) 日時 令和5年10月14日(土) 13:30 ~ 16:00
- (2) 会場 京都府看護研修センター Zoomによるweb研修
- (3) 対象 京都府内の訪問看護事業所(みなし含む)の管理者および職員
開設前の相談をしている開設予定者
- (4) 内容 講演「労務管理からみた事業所運営のヒント」(別添1)
講師 社会保険労務士 伊藤 健 氏
- (5) 参加者 参加者18人

(6) 質疑応答・意見交換内容

・ カスタマーハラスメントに関して、利用者との契約書に文書で記載しておくことが大事と言われていたが、具体的にはどのような文面が必要か。

⇒例えば、「訪問中、職員へのハラスメントや迷惑行為が確認された場合は契約を解除することがあります」などの文章はいかがか。

・ スタッフが妊娠した場合、夜勤などの勤務免除は本人の申し出によるということであれば、本人が大丈夫と言え、時間外や休日出勤、オンコールの免除をしなくてもよいのか。

⇒基本的には本人の申し出によるが、管理者としてしかも医療の専門的見地を持っているものとして、母子保健上の問題を承知しながら働き続けさせることがいかがかという問題であり、もしそこで何かが起こったときは問題になる可能性が高い。

・ オンコールの待機で、一晩に何度も呼び出しがあり、翌日の日勤を年休を使って休ませたいが、本人が年休を使うことを拒否して仕事をする場合は休ませる手段はほかはないか？

⇒事業所として緊急呼び出しがあった待機明けの勤務免除という取り決めを作ってはどうか。こういった職員の働きやすさにつながる取り組みをする事業所が、働く人から選ばれていくことにつながると思う。

(7) アンケート結果（回収率61%）

①今後の事業所運営に活かせるか

- ・ とても活かせる 7人
- ・ 活かせる 4人

②研修の学び及び感想

- ・ 看護協会さんに相談窓口があると言う事がとてもありがたいです。
- ・ 自分自身も含めスタッフが働きやすい環境を維持して行く事の大切さを再確認出来た。
- ・ ハラスメントについての、重要事項説明書、契約書の記載について、検討しているがまだ出来ていない為、早急に追加する必要があると感じた。
- ・ 人材確保に対して、なかなか募集をかけても応募がない状況でしたが、今一緒に働いているスタッフを大切に、出来ることから始めていきたいと思います。
- ・ 福祉現場で早期離職防止や・・・最も効果のあった方策についてはよく分かり、今後実践に繋げていこうと思いました。
- ・ 元々看護師なので労務管理についてはまったくの素人であり、色々疑問があってもどこに相談して良いのかも分かりませんが、看護協会に相談窓口がある事が分かり安心しました。
- ・ 労務管理について、考える機会となりました。頑張ってくれている職員が働き続けるこ

とが出来る職場にするために、コミュニケーションやチームワークの向上など、少しずつでも出来ることから取り組んで行こうと思います。今の職員を大切にすることで、新しい職員の確保や利用者さんの増加にも繋がれば良いなと思いました。

- ・ スタッフが働きやすい環境を整えるのが管理者としての役割の一つであること、本当にそうだと思います。行政に掛け合わないといけない事が多く事がなかなか進まず色々なことに苦慮しますが、相談窓口があることで安心できます。ありがとうございます。

- ・ 管理者となってまだあまり期間が経っておらず、今回の研修はとても勉強になりました。しかし、反対に怖さも感じているのも事実です。若いスタッフは権利意識も強く対応の難しさを感じずにはられません。ハラスメントの事もあるため更に難しさを感じます。

- ・ 管理者としての知識をしっかりと持ち対応していかなければと思います。

相談窓口があることがわかり、少し気持ちが楽になったような気がします。

- ・ 職員とのコミュニケーションを図りたくても、訪問看護では各自訪問にでていて、昼休憩は自宅に帰る人も多く、私自身が仕事に追われているとなかなかコミュニケーションを図る時間がとれませんでした。

- ・ 管理者研修に参加したことがあり、患者満足度の必要性が求められる事も大切ですが、自部署の職員の働きやすい職場作りの大切さを学びました。

- ・ ただ、職員同士が、働きやすく楽しい職場作りへの意識が低い発言（職員同士ですぐ不平不満を言い合う）を管理者がいない場面で話している事もあるのです。

しんどいけど頑張ろうねとお互いの指揮を高め合う意識を持って頂くことが、とても難しいです。

- ・ 本日はご講義頂き誠にありがとうございました。今後の仕事に活かして参ります。

- ・ 労務管理の知識の更新、業務改善を繰り返しながら毎日十分にスタッフとコミュニケーションをとって人が育つ環境を維持したいと思いました。地域の中で管理者同士でも日常の課題解決を共有できる機会を大切にしていきたいです。

③訪問看護総合支援センターに望むこと

- ・ 訪問看護に特化した内容がありがたいです。

- ・ 人材確保について困っています。

- ・ 京都府の訪問看護ステーションのPR を京都府民向けに行ってほしいです。

- ・ 請求業務について

- ・ カスハラ対応

- ・ 働き続けられる職場作りなどなど

- ・ 今回の内容から、地域や他施設との連携について、どのように取り組んで行けば良いのか具体的な方法や実際の交流の場があると良いなと思いました。地区毎に事業所が集まっ

て取り組みもされていますが、すでに関係も出来上がっていて、新しく管理者になった立場としては、敷居が高く感じる場面も多いです。同じような悩みのある人で話せる場があると有り難いです。

・利用が増える中、事業所不足、人材不足にどう対応していくか。

(8) まとめ

質疑応答・意見交換では、具体的な質問や意見があった。参加人数は少なかったが、アンケートの記載から参加者の満足度は高い。訪問看護事業所の運営上の悩みを共有し、解決するための研修を今後も参加しやすい方法で継続する必要があると考える。

3) 第2 回事業所運営支援研修

目的 R6 年診療報酬・介護報酬・障害福祉制度改定の概要を学び、法令を遵守した健全な事業所運営を行うことができる。

(1) 日時 令和5 年10 月14 日(土) 13:30 ~ 16:00

(2) 会場 京都府看護研修センター Zoom によるweb 研修

(3) 対象 京都府内の訪問看護事業所(みなし含む)の管理者および職員
開設前の相談をしている開設予定者

(4) 内容 講義1「在宅領域に関わる令和6 年診療報酬改定の概要について」(別添1)

講師 公益社団法人日本看護協会医療政策在宅看護課 堀川 尚子 氏

講義2「訪問看護分野の令和6 年介護報酬改定概要について」

講師 京都府高齢者支援課 主幹兼係長 畠中 稔子 氏

講義3「訪問看護分野の令和6 年障害福祉制度改定概要について」

講師 京都府障害者支援課 参事 大同 裕子 氏

(5) 参加者 131 人

①所属 訪問看護事業所82%、みなし訪問看護事業所12%、その他6%

②職種 看護職71%、事務職19%、他(経営者、法人代表)

③会員比率 58%

(6) 質疑応答・意見交換内容

【講義1】

① 訪問看護ベースアップ評価料について

評価料Iについては、訪問看護師及びスタッフの賃金アップに係る費用として算定でき、別に算定要件が設定されるのか。そのうえで不足する場合は、医療保険の利用者割合を算出して事業所のランクごとに加算を設定するという理解でよいか。

⇒良い。算定方法などは一度厚労省の説明動画をチェックしてみて欲しい。後日計算ツ-

ルなども発表される予定。

賃金アップに活用するのは義務化か。ベースアップ評価料については、ベースアップを図る事業所が算定するというので、それ以外の事業所はあえて算定しないという考えでもよいか

⇒その通りだが、訪問看護師の処遇を改善するという立場から、ぜひ要件をそろえて算定してほしい。

② 24 時間対応体制について

24 時間連絡体制加算の算定要件、オについて、利用者の同意は同意書が必要か。⇒ 24 時間対応体制加算の契約書に見直しが必要。同意が必要。

連絡体制は、他職員でもよいということか。⇒ファーストコールを受けるのは事務や他職種でもよいが、対応は看護師・保健師が即時行う体制をとっていることが必要。

③ 管理者の責務について

訪問看護管理者が別の事業の管理を兼ねることが可能ということでしょうか。同一敷地内であれば訪問看護管理者と放課後デイの管理者を兼ねることができると考えてよいか。⇒ 同一法人内で利用者管理に支障がないと見なされれば可能。

④ 退院支援指導加算について（時間切れで後日返答）

退院日は90 分訪問しないと算定が出来ないのか。また複数回訪問した場合も結局1 回の加算になりますか。⇒今まで退院日は訪問看護基本療養費を算定できない代わりに、退院支援指導加算の6000 円か、8400 円（60 分以上）のいずれかを算定していたが、退院日に複数回訪問することもあり、その場合は、訪問時間を合算して合計で60 分以上あれば8400 円の方を算定してよいという解釈。

【講義2】

① 口腔連携強化加算は、連携するスタッフがST でも良いのか。⇒事業所の従業者が、歯科訪問診療を算定する歯科医師と連携、となっているので良いと思われるが、QA を確認してほしい。

② 理学療法士による訪問看護の見直しで、前年度のリハ職員の訪問が看護職員による訪問回数を超えている場合減算とあるが、利用者一人当たりで計算するのか、事業所全体で計算するのか。⇒この記載であると事業所全体と見えるが、計算方法などが出てから確認してほしい。

③ 緊急時訪問看護加算の1 と2 では算定要件の何を満たせば1 を算定できるのか。⇒おそらく次のページのア～カの要件を満たす必要があると思われるが。医療保険の報酬算定との整合性もあり、今後の届け出要項などを見守ってほしい。

看護師以外が電話を受ければよいというわけではないのか。⇒医療と同じでファーストコ

ールを他職種が受けて良いということであって、あくまで対応は保健師・看護師が速やかに行える体制を持っているということになる。

【講義3】

① 市区町村における子育て支援の充実について、新設された支援の柱が、どうしても妊娠期、乳幼児期、学童期、家族へとそれぞれ時期や状況によって分断されているように感じるが、どうか。北欧のような一貫した制度にならないのか。⇒そういう面はあるが、今のところ相談支援員に制度を繋ぐ役割を持ってほしいと願っている。

② 特別支援学校への通学支援で、何らかの対応が出来ないか。公共交通機関での看護師の行き来が効率的ではない。⇒制度が出来たところであり、利用してほしい。個別ケースの相談は「ことのわ」で受けることができる。

③ 児童発達支援や放課後デイなのでカンファレンスに訪問看護から出席するが、報酬はない。

何らかの手立てがないのか。⇒今回の改定では特に訪問看護側への加算などはなかった。障害福祉施設側には、今回の改定で訪問看護との連携に加算が付いた。

(7) アンケート結果（回収率46%）

① 次年度の研修企画に対しての要望

- ・研修資料を早く提示して欲しい。
- ・医療的ケア児の保育園入園や就学に関すること、学校看護師さんと交流できる研修
- ・看護管理ではなく事業所管理の研修をもう少し行ってほしいです。また事務職へ向けての研修も希望します。
- ・報酬や加算について研修をまた開催して頂きたいです。
- ・生涯学習支援
- ・サイバーセキュリティ
- ・看護管理者研修（短期間コース）
- ・オンライン請求に関する研修
- ・訪問看護ステーション事業展開に関する研修

② 総合支援センターへの要望等】

・京都市では小児の訪問をうけるステーションが10年前より増えていますが、現状の課題や自分達が京都市という地域で求められているニーズに対して検討する機会がない。ステーションが連携すれば個々で支援するよりも大きな力が発揮できるのではないかと思います。

- ・横のつながりをもてるように支援して頂きたい。
- ・本日は明らかになってない詳細を解説いただける配信があると助かります。
- ・講義1 と3 の資料が届かなかったのは残念であった。

・ 全体に必要な研修（訪問看護の質向上）が集約されて地区ごとの課題に合わせた研修が地区開催となれば効率的で効果的だと考えます。

・ 研修開催頂きありがとうございました。まだ具体的な情報がないところも多くありますが、わかるところから準備を進めたいと思います。

・ 訪問看護の総合支援をしていただけるセンターがあること事態がとても、心強く思っています。

・ 随時質問できるシステムの構築をしてほしいです。

・ 資料もすぐ出力できず、ID も分からず、受講できなかった。準備にもっと時間かけたらよかったのですが訪問からギリギリに帰ってきて間に合わず諦めた。他にこのような意見なかったでしょうか。

・ 今回、研修に参加させていただき、制度について学ぶことができました。もともとの知識がなかった為、頂いた資料も私にとってとても役立つものでした。実際訪問の現場にいると次々

と新たな疑問が出るので常に情報を得る必要があると思うので研修を受けさせて頂きたいと思います。よろしくお願ひ致します。ありがとうございました。

・ 無料の研修は助かります。またよろしくお願ひ致します。

(8) まとめ

トリプル改定に関するものであり、訪問看護に特化した内容であったため看護職以外の参加者も含め参加者が多かったと思われる。質疑応答も活発であり、アンケート記載についても多くの意見や要望が寄せられた。要望については、制度等の知識の確認等の研修やオンライン請求・サイバーセキュリティなど事業所運営上対応が迫られている課題の研修、管理研修等やネットワークづくりへの期待が寄せられていた。次年度以降の計画策定の参考にしたい。

4) 訪問看護事業所交流会

目的： 京都府内の訪問看護ステーションの管理者に情報交換や意見交換等の機会を提供し、より質の高い事業所運営に繋げる

(1) 日時：令和5年12月16日（土）13：00～14：00

(2) 会場：京都府看護研修センター Zoomによるweb研修

(3) 参加者：20名

(4) 内容

①訪問看護総合支援センターからの情報提供

・ 事業内容

②参加者の活動地区情報

- ・ 府北部地区：訪問担当範囲が広く、効率が悪い。北丹地区はここ数年訪問看護ステーション数が変化しない。しかし、訪問看護事業者の顔触れが変わらないので、横のつながりが作りやすい状況がある。研修参加は市内開催のものは参加しにくい。

- ・ 北部中部地区：府の制度と市の制度の違いがあり、地域をまたぐと同じ状況でも別の対応を要する場面がある。また、ステーション数が面積に比べて少なく、担当範囲が広い、福祉資源も乏しいなどの理由で一部支援が届きにくい地域がある。

- ・ 市内：数は増えているが、小規模事業所が多くスタッフを研修などに出しにくい。また新規事業所が増えているが、新規立ち上げの事業所に協議会などの活動と呼び掛けるがなかなか困難な面がある。何か運営や経営的メリットがないと、なかなか誘っても入らない。横のつながりが大事と思うが、そういうところとは連携がとりにくい。そもそもの人数が少ない事業所内で何かあって一人スタッフが欠けると負担が一気に増加する。今、年末にかけて依頼が増え、どこの事業所も手いっぱいの状況になっており、業務がひっ迫しているが、応募しても人が来ない。地区の中でもステーション数が増えているが、協議会に入っているメリットとして、地区内の協議会加入ステーションでBCP ワーキングチームを作って一緒に活動をしている。

- ・ 京都府南部：今どんどん新規事業所が開設されており、それらすべてがどのような運営をされているか、地域の中でもわからない面がある。状況がわからないと、利用者さんを紹介することも躊躇してしまう。活動されているステーションの存在がわかりにくい。また、スタッフがなかなか集まらない悩みをどこもが抱えている。

③意見、要望

- ・ 最近対面の研修も増えて楽しみではあるが、府下の事業所は距離的に研修に参加しにくい。

研修についてはオンラインも多いので、機会が減っているわけではないが、対面で効果が出る研修もあると思うので、対面の研修は市内と府下の2 か所開催を検討してほしい。

- ・ 協議会で行っている研修や研究発表の支援を支援センターで担ってもらえると、組織活動がもっとできるかもしれない。訪問看護に関する研修を支援センターでやってもらえることに期待をしている。特に虐待や認知症対応など事業運営上取り組むことが定められた研修を毎年定期的にやってほしい。

- ・ 小児の訪問看護を始めても、新規のところには依頼が少ない。（京都市からコーディネーターを通してアピールしてはどうかと言われた。）

- ・ 相談業務は、以前協議会で行っていた事業では、自分たちが業務を行いながらの携帯対応であったため、返答にタイムラグが大きく、受ける方の業務負担もあった。専任になることでより規模も件数も多くなり、内容も多様な内容に対応が出来るということがとても良いと思う。

- ・新規事業所がどんどんできてくるが、質の問題が不安。
- ・協議会に入会されていないところの情報が不足しており、連携の仕方がわからない。
- ・看護研究に取り組んでいるが、臨床から発信することは大事と考えている。研究としてもっと内容を充実させたい。
- ・ずっと人員募集をかけているが全く集まらない。夜間対応や少人数対応など訪問看護への就職のハードルが高いと思う。なり手が少ない状況で法人と相談して、プラチナナースなども検討しているが人が増えない。人材派遣会社はコストがかかりすぎる。人材派遣会社から雇用した人が入職5日に退職となり、トラウマになっている。ナースセンターに登録しても今はなかなか動きがない。

(5) まとめ

横のつながりと地域のサービスの質の関連性があることがわかった。協議会や協会に入っていない方を今日のような交流会に誘って、そこから協議会や協会に入ってもらえるよう呼びかけるなどの取り組みも必要。また、開設後の運営支援も必要ではあるが、開設前の教育が大事と思われる。事業所指定前の管理者やスタッフに対しての研修を必須にするなど、指定を行う京都市への要望も行っていく等、今後も協議会と協会と連携し訪問看護事業所運営を支援する意義を感じた。

3 人材確保

1) 看護学生対象訪問看護入門研修

目的

地域包括ケアシステムの構築が急がれる中、訪問看護は従来に増して質の高いサービスが求められており、訪問看護師の確保は喫緊の課題となっている。看護学生を対象とする訪問看護入門研修を開催し、より多くの看護学生に訪問看護への興味と関心を持ってもらうことにより、卒業後の進路の一つとして訪問看護を考える機会とする

(1) 日時：令和5年8月2日(水) 13:30～16:00

(2) 会場：京都府看護研修センター Zoomによるweb研修

(3) 参加者：7人(大学3年生2人、専門学校1年生3人、教員1人)

(4) 内容

①講義：訪問看護の役割と魅力(別添2)

講師 佛教大学保健医療学部 在宅看護 准教授 清水 奈穂美 氏

②事例紹介：忘れられない訪問看護エピソード(別添2)

・認知症療養者との関わり(訪問看護ステーション所長 金澤 克枝氏)

・終末期療養者との関わり(訪問看護ステーションにしがも師長村上 成美氏)

(5) アンケート結果

・貴重なお話をありがとうございました。お話から、対象の方とその家族の幸せを第一にケアするということを学びました。対象の方にとっての幸せや楽しみを見つけて、それらをより増進できるように、強みや足りているところ足りていないところをアセスメントすることが大切だとわかりました。

問題解決思考だけでなく、目標思考を持ってQOL を高めるケアをしていきたいと思いました。

過去現在未来の暮らしから家族全体を見つめることが大切だとわかり、今後の実習にも活かして行きたいです。

・貴重なお話ありがとうございました。対象者に目を向けがちな部分ではあるが、その家族もケアの対象者であるということが大切だなと感じました。訪問看護や在宅となると家族の生活の場でのケアになるので、家族のプライベートな部分や強みにも目を向けていく必要があるなと思いました。ご講義ありがとうございました。

・早くから介入できていれば…というお話から、地域で在宅看護を必要とする人をいかに早期発見し医療介護福祉サービスへ繋がられるかも大切だと思いました。また、在宅看護は自宅というご家族にとって安心できる場所で看護を受けられることから、病院よりさらに家族に近く深く関わり、対象者さんと家族全体の幸せを目指して支援するのだとわかりました。また、看護師は対象者さんの長い人生のある場面での登場人物であるという考え方が印象的でした。登場人物として、対象者さんの人生にどのように関わってゆくのかという視点を今後も持ち続けていきたいです。

・私は今どこで働くか決めかねています。都会と地方の訪問看護に、対象の方や疾患、ご家族の在り方などに違いはあるかと考えていましたが、地域の特性や対象の方を理解することは、働くうえでどこにいても大切なのだと解りました。どこにいてもその土地の人々を支えられるような知識と技術を身に着けていきます。

・訪問看護は医療従事者としても、患者さんの家族の一員としても関わる素敵な仕事だと感じました。病院でたくさんの命を救うという在り方もあれば、一人一人の最期まで寄り添う在り方があると知れたので自分の将来の働き方をしっかり考えていきます。ありがとうございました。

・今回は、今後の就職について迷いがあり、訪問看護について興味もあったことから参加させていただきました。急遽、図書館での聴講になりましたので、終始ビデオをつけることができず申し訳ございません。訪問看護では、対象者の暮らしや生きてきた背景など色々な視点からその人らしい生活を理解し、支えることが大切な役割の1 つであると改めて考えることが出来ました。また、訪問看護の場は対象者だけでなくその家族の生活の場でもあるため、家族への配慮、ケアも必要だということを学びました。

・痛みなど医療者として介入して行く部分と、思いや考えに寄り添い、共に併走して行く

ことも訪問看護の1つの特徴なのかなと感じます。その中でも、発言内容や言葉のニュアンスの違いなど少しの変化から気づきを得ることの大切さを学びました。なかなか難しいことではあると思いますが、これからの生活でも意識していきたいと思います。加えて、残された家族へのケアに感動しました。看取りの時も、「家族の声を聞いてから旅立たれたと思いますよ」という声かけが印象的で、この声掛けがあることで家族の受容の1歩を始めることに繋がるのではないかと感じました。幅広い年代、あらゆる健康状態にある方々とその家族を対象としており、人それぞれ違うと考えられるが、その人らしい生活に登場して支えていくにはどうすればいいのか、改めて考えていきたいです。そのためにもまずは、正しい知識と技術を身につけて行きたいです。貴重なお時間、お話をありがとうございました。

(6) まとめ

今年は看護学校側では8月にまだ学期が終わっておらず、試験中や実習、課題があるなどの学校がほとんどの状況で、広報を何度も行ったが参加者が少なくなりました。来年度は、看護学校側と相談の上、研修の日程調整を行いたい。

参加した学生にとっては、少人数で話しやすく自分の悩みも相談しやすかったと思われる。

2) 看護学生対象訪問看護一日職場体験

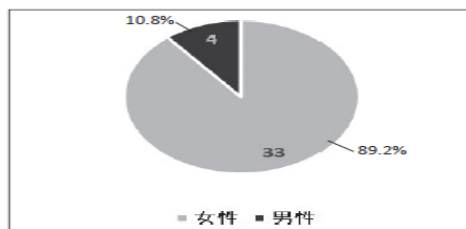
目的

看護学生が、体験学習を通して訪問看護に興味と関心を抱き、訪問看護ステーションへの就業を考える一助とする。さらに、訪問看護人材の安定的な確保により在宅療養へ貢献する。

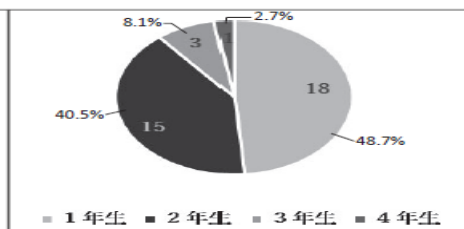
(1) 日時：令和5年7月～同9月(内1日)

(2) 参加者：37人(応募6校)

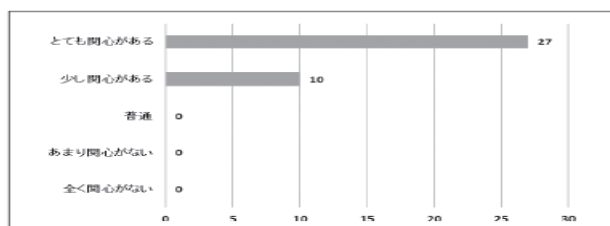
男女比



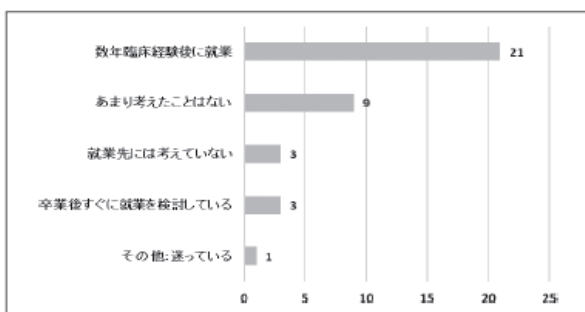
学年



訪問看護への関心



卒業後の進路について (37人)



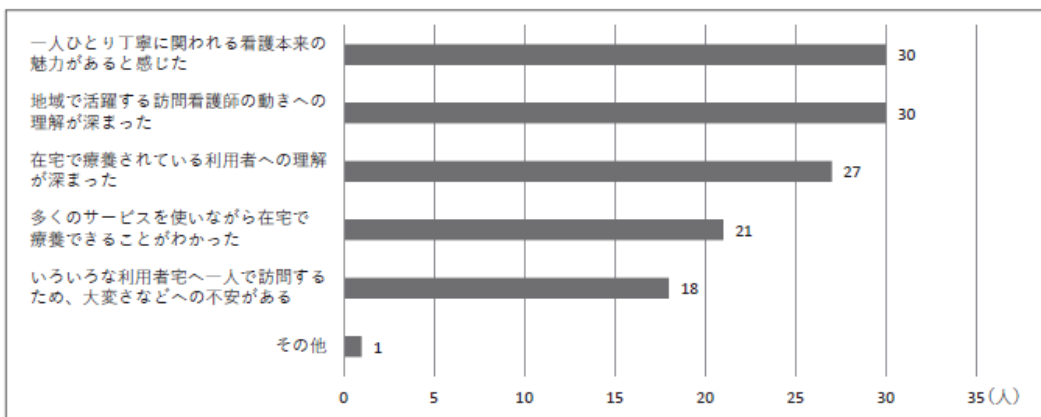
(3) 受入事業所30ヶ所 (受け入れ申し出事業所53ヶ所)

(4) 体験結果

①体験内容 (複数回答)

項目	人	項目	人	項目	人	項目	人
オリエンテーション	3	洗腸	4	皮膚ケア	5	尿路ストーマ交換	1
申し送り・カンファレンスの見学	2	摘便	2	リハビリ	6	ストーマ管理	2
状態観察	7	陰部洗浄	3	体位保持	1	カフアシスト	1
バイタルサイン測定	17	入浴・シャワー浴介助	8	食事支援	4	吸引	1
コミュニケーション	9	更衣・整容	4	経管栄養	3	褥瘡処置	4
他職種との連携	3	清拭	3	血糖測定	1		
グループホーム見学	1	口腔ケア	3	インスリン注射	3		
内服管理	8	足浴	5	採血	1		
環境整備	1	フットケア	1	点滴	2		
排泄介助	11	マッサージ	4	膀胱洗浄	1		

②体験での学び (127回答 複数回答あり)



・今回、訪問看護の魅力も直接現場を見て感じる事ができました。授業で学んだバイタルサインや、これから学ぶ排尿介助について理解を深めることが出来ました。今回の学びを今後の授業で生かせるよう頑張ります。

・実際の在宅看護を見させていただき、授業とは違った現場を見させていただいた。今後在宅での看護が必要になる中で、訪問看護師さんの仕事を見ることができ本当に今日は良かった。

今後の実習に活かしたいと思う。

・訪問看護ステーションは、設立した看護師たちの看護観や分野で提供する医療や看護に差が生まれると知った。今回体験したステーションは医療保険の方が6割。普通のステーションは介護保険の方が多とのことだった。訪問看護ステーションとひとくくりにせず、それぞれの特徴を考えて選択する必要があると感じた。

・訪問看護を利用しておられる患者さんの生活空間や看護師の方とのコミュニケーション。患者さん、ご家族の意思尊重のもと、看護を実践しておられるということを学べた。患者さんの生活の場であるご自宅であるため、一つ一つの行動に声掛けを行っておられる看護師さんの姿を見て、何事にも声掛け、意思尊重はとても大切だなと思いました。

・訪問看護と病棟での仕事の進め方や患者さんへのかかわり方について、比較しながら学ぶことができた。家で日常生活を送っている方が安心して生活できるような環境整備がとても大切だと思った。

・利用者さんだけでなくそのご家族とも密にコミュニケーションをとってその人の生活により密着した看護を行うことができるという点が魅力だなと思いました。

・利用されている方に合わせた看護が行われていることを学びました。訪問看護ステーションは看護師だけではなく、医師や事務の方など様々な方と連携して行われていることを学びました。

・訪問看護というものを初めて身近で学んで、限られた時間の中で利用者さんの強みを生かしながら看護をされているのが印象に残りました。一人一人に合った方法で、例えばコミュニケーションの取り方一つでも接し方でも、同じ看護は存在しないので、少しの工夫が大切だと思いました。また、コミュニケーションがすごく重要ということを知り、私が思っていたよりも看護師さんと利用者さんが楽しそうにお話しされており、病院と全然違うな、と思いました。

・家であっても、病棟と同じような環境にして療養をしている方がいたり、できることが多いため私と同じような環境の方がいたりしているのを見て、病院よりも自立の面や利用者さんのご意見に寄り添っていることが多いと感じました。私が看護師になったら、その点を大事にして利用者さんだけでなく、ご家族にも配慮を行い、療養環境をよりよくしたいと考えました。

・改めて看護の良さ、魅力に気づくことができる体験になりました。特に訪問看護では、対象者さんの暮らしに寄り添った看護を実践するためにたくさんコミュニケーションをとって意向を聞いたり、どこに物があるのかやどのように捨てたらよいのかなど大切にされ

ていると感じました。状態だけを見るのではなく、思いやこれから先のことも考えて、対象者さん、家族さんと関係を築かれているのだなと思いました。コミュニケーションの際にも、目線を合わすことであったり、手に触れたりして基本となることを大切にすることで安心につながっているのではと思いました。日常的な排せつや清潔などの援助を見させていただいて対象者さんがうれしそうな場面もあり、改めて対象者さんと家族に寄り添うとはどういうことか学ぶことが出来ました。

- ・自宅でのケアを正直イメージがつかなかったけれど、実際目で見て、あるもので工夫したり、家の構造をしっかりと捉えたり、家族関係の理解など、視点をたくさん持つことが大切だと感じた。患者さんだけでなく、患者さんを支える家族の存在もしっかりと連携を取りながら看護されている様子がとても印象に残りました。勉強になることばかりで、これからの看護に活かしていきます。

- ・入院患者さんの場合では、介入が難しいような自宅内での工夫やその人の生活、できる部分をどう生かしていけるのかを考えたかわり方が訪問看護だからこそできるもので、利用している方に寄り添った看護介入だと思いました。自宅だからこそ心配や不安もあるが、そこに対して様々な工夫をされていた。利用している方のことを理解したかわりがとても学びになりました。

- ・一人一人の生活スタイルに合わせて看護されていたところが印象的でした。一人で訪問し、患者さんのいろいろな悩みを聞くので、臨床経験が豊富でないと難しいのかな、と感じました。

- ・4か所の訪問を見て、多くの看護技術や対象者とのコミュニケーションを見ることができ、とても勉強になりました。看護師だけでなくケアマネジャー、ヘルパー、デイサービスなどとの連携についても学びました。一人ひとりと深く関わることができ、訪問看護の仕事にとても魅力を感じました。在宅で処置や援助を受けながら、その人らしい暮らしをされていたことが印象に残りました。

- ・今回の体験を通して、改めて「住み慣れた場所」というのは、患者さん本人にとってとても重要なことだと思いました。病棟の入院では、制限がかかってしまうところを訪問看護では、そこをどのように管理したら患者さんのしたいことができるのか、をケアマネジャーさんやヘルパーさんなど多くの職業の方と連携し、ケアプランを立てているところに新たな学びを感じました。

- ・今回の1日職場体験で、病院の看護師とは違い患者さん一人ひとりに時間をかけて接している場面を見たのが印象に残っています。その分、相手の話をゆっくりと傾聴して体調を確認出来たり、信頼関係があると思いました。また患者さんとその家族だけではなく、看護師同士の情報共有が友音に行われていたし、全員で患者さんの安全を守るという意識を感じました。どの看護師も反応があまり返ってこない方や介助が大変な時にでも笑顔で

暖かく接している姿を見て、より憧れの看護師像に近づくために頑張ろうという思いを強くしました。

- ・患者さんと患者さんの家族と密な関係性を築ける。じっくりと時間をかけて患者さんに寄り添い、向き合っているなど感じた。また、在宅での看護なので、患者さんの生活面を見ることができ、家族の方から直接聞けるので、より身近に患者さんに合った看護をすることができると思った。

- ・一人一人に合った看護をされていて、長期目標や短期目標を決めて、その目標が達成できるように、その人のニーズを考えながらケアプランを計画しているんだなと感じました。

- ・利用者本人はもちろんのこと、利用者家族も介護によってストレスが溜まりやすいということを実際に訪問して肌で感じる事が出来ました。利用者だけでなく、常に利用者を介護されている家族にも深く注意して観察することが、必要だと知りました。日々、授業で学んでいる看護師の声掛けやタッチングを実際に見学することができとても良い勉強になったと感じています。

- ・利用者さんに、自らいろいろなことを話してもらうためのコミュニケーションの取り方や会話の方法を学ぶことが大切だと感じた。また、訪問看護も実際に体験してみて、臨床の場よりの利用者さんの本来の姿に触れ、一人ひとりに合わせた援助を行うことができると感じ、様々なことを一人で行うことの大変さを感じながらも、訪問看護というものに、とても興味を持つことができた。

- ・一人の患者さんに、訪問看護師だけではなく、ヘルパーさんや薬剤師の方との連携など、多職種の方が関わっておられると感じた。患者さんの状態を確認するに当たって、見た目でわかる変化からコミュニケーションを行って聞き出す情報をとても大切にされていると感じた。

- ・1 日体験してみて、病院との違い一人で訪問看護しながら患者さんの体調を確認していてすごいなと感じました。でも、病院と一緒に感じたのは、多職種との連携をして患者さんやご家族をケアしていることに気づくことができました。病院では学べないことを訪問看護の体験をして多くの学びを見つけることが出来たので、参加してよかったなと思いました。

- ・今回複数の利用者さんのご自宅へうかがわせていただいて、本当に様々な生活・家族の形があって、その中で利用者の方が安心安全に過ごすためにあらゆる面からサポートしていらっしゃることを学びました。そして、病院での暮らしとご自宅での暮らしの違いについても、もっと理解しておかないといけないなと感じました。

- ・訪問先へ一人で行くことになるので、責任のある仕事だと感じた。体の状態だけでなく、家族のことや性格のことまで理解されていて、病棟の看護とはまた違ったかわり方

をされていると感じた。

・病棟とはまた違う看護師の姿を見ることが出来ました。訪問看護を利用されている方は、病棟の患者さんよりも看護師さんたちとの付き合いが長くなるため、よりお互いのことを知る必要があり、向き合っていくべきなのだろうと思いました。また自立という視点が、とても大切なのだと学びました。

・利用者一人一人の性格に合った看護をすることで、利用者が望んでいる生活を支えることができるんだと学んだ。

・利用者さんの気持ちを尊重し、利用者さんのペースに合わせて必要なサポートを考えることの大切さ、安心できる家での療養が出来ることで利用者さんがリラックスでき、身体的・精神的に良い効果があると改めて感じました。

・利用者さんやご家族の方が「訪問看護師さんがいなければ家での今の生活はなかった。」や「訪問看護師さんの顔を見ると安心する」と言っていたのを聞いて、自分も将来そういったもらえる訪問看護師になるために、日々の勉強を頑張ろうと思いました。

・今回の体験で、看護師と利用者さん、家族の方のかかわり方を見ました。看護師は、利用者さんの訴えや不安なことを聞き、それをもとに対応できるアドバイスを送っていました。また、家族の方の不安な気持ちに寄り添っていた。訪問看護師は、特に責任重大で、大変な仕事だけど、今回の体験を通して、これまで以上に興味を持つことが出来ました。

・わたしはこれまでに受けた在宅看護の講義で、在宅では身の回りにあるものを利用して看護を行うということや、強みに着目することが大切であるということを知りました。前者のことに関しては、ペットボトルの二に小さな穴をあけた物を用いて陰部洗浄を行っており、後者のことに関しては、現時点での健康課題となっていることばかりに着目するのではなく、利用者さんが出来ていることに着目しながら、コミュニケーションをとっていたことに気づくことが出来ました。これらのことから、今回の体験によって、座学だけでは学ぶことができない在宅看護とは何かということについて、少し理解が深まりました。

・今まで、訪問看護と言えば「生活の場」に入ると学んできましたが、今回の実習でその言葉の意味が理解できました。家庭の一つ一つに多様な状況があり、それに応じてケアプランや他職種との連携を行うことが必要であると、今回を通じて学ぶことが出来ました。訪問看護に興味があったので、今回いけて良かったです。

・訪問看護は利用者さんと関わるだけでなく、それぞれのご家庭の生活状況を考えることも大切だと解りました。様々なご家庭があり関わるのが楽しかったです。

・病棟と比べてじっくりと患者さんと関わる事ができるのが魅力だと感じました。長く一人の患者さんと関り援助ができるので、関係を築きやすいと感じました。訪問看護への理解が深まり関心が高まりました。

・訪問看護の利用者は、老若男女幅広く、求められる看護師の能力も高い。特に医療ニーズの高い利用者に対しては、病状をアセスメントするための知識や思考力、処置を行う技術が求められ、その時の判断や行動力も必要である。他にも、誰に対してもうまく話せる能力も不可欠である。これらは経験によって高められ、経験が自信につながる。病院と訪問看護ステーションで学べる内容に違いがあるが、様々な人や疾患を多くみられる病院の経験は必要だと感じた。

・患者さんの家族との関係や生活感、看護師との関りなど様々なことを学ぶことが出来ました。

患者さんの意思を尊重して看護を実践されており、病院内だけでなくご自宅での看護も充実しているのだと感じました。患者さんに対してのコミュニケーションの取り方など、一人ひとりに合わせた対応を行っておられました。状態観察も入念に行っておられました。グループホームにも行かせてもらい、看護師の援助をまじかで見ることが出来ました。看護師の方やリハビリの方など、たくさんの医療従事者の連携のもと、患者さんを支えておられるのだと改めて感じました。今回の体験を通じて、訪問看護について様々なことを学ぶことが出来とても良い経験になりました。

・1 日体験を通して、病棟と訪問看護の違いや関り方について学ぶことができた。行う内容は同じであっても、進め方や主体性が違うことについて考えることができた。訪問看護では、患者さんのものは（私物は）基本移動させず、患者さんの生活が変化しないように介助することが大切だと解った。

・病院とは違い、在宅はより長い目で見ることが必要があり、利用者さんだけでなくご家族とのコミュニケーションや、多職種との連携がさらに大切になってくるのだなと感じました。訪問看護の方の関わり方を見て、今後の実習や学習に活かしたいと思いました。

・利用されている方のニーズに合わせた看護が行われていることを体験しました。こだわりがある方には、利用者さんの希望に沿った看護が行われていたことを学びました。また、ベッド上での洗髪方法を初めて見て、このような方法があるのだと学ぶことが出来ました。

・訪問看護は、利用者さんが生活されている中で、その一部として看護があるというのを忘れてはいけないなと感じました。週に1回や2回と短い日時の中で、利用者さんと接しないといけないので、信頼関係が大切だと思いました。1回の訪問が病院より長いからこそ人に触れることが利用者さんにとってはいいことだと解りました。人の温かみが伝わり、場が和むことを肌で感じ、温かみのある看護はどこに行っても必要だと考えました。

・どの利用者さんもお家に行くとお出向かえてくださる方が多く、訪問看護を楽しみにされ、嫌だと思っている方がいないのだなと感じました。そのためには、看護師さんたちの日ごろからのコミュニケーションを通して、看護の仕方などから信頼をされ、任せても大

丈夫だと思ってもらえる行動があるのだなと実感しました。私たちとお話しして下さるときも、看護師さんたち全員が優しく話して下さったのを体験して、日ごろから誰に対しても同じ対応をすることも大切なんだなと感じました。

・訪問看護を行う上で多職種連携が大切だと解りました。また、改めて看護の良さ、魅力に気づくことができる体験になりました。特に訪問看護では、対象者さんの暮らしに寄り添った看護を実践するために、たくさんのコミュニケーションをとって、普段の様子や意向を確認したり、どこに物があり、どのように捨てたらよいのかなどが大切にされていると感じました。状態だけ見るのではなく、思いやこれから先のことも考えて、対象者さん、家族さんと関係を築かれているのだなと感じました。コミュニケーションの際も、目線を合わすことであったり、手に触れたりして、基本となることを大切にすることで安心につながっているのでは、と感じました。日常的な排せつや清潔などの援助を見させていただいて、対象者さんがうれしそうな場面もあり、改めて対象者さん家族さんに寄り添うとはどういうことか学ぶことが出来ました。

・実際に訪問している時だけでなく、ケアマネジャーさんやヘルパーさんの役割や連携といったものや、制度・カルテや医師への報告、訪問看護指示書などの書類の内容や書き方など訪問看護師の方がやっていること、また在宅で暮らされている方への様々なかかわりを細かく丁寧に教えていただいた。私はこれまで、訪問看護というのは一人ひとりにすぐく寄り添える、その人らしさや生活を尊重できるものだと思っていました。今回体験してみて、これらを実際に実感できたことに加え、利用者さんが看護師さんが来るのを楽しみにされている様子や嬉しそうに話される様子があり、訪問看護というものは安心だけでなく、楽しみにもなっているのだと感じました。訪問看護という仕事について、学べたことに加えて、利用者さん一人ひとりと丁寧に生活に寄り添って関われる訪問看護の仕事に魅力を感じました。

・療養者さんとそのご家族の療養生活の実際に触れ、療養者さんの生活の中で交わす何気ない会話は、病院や施設とは違い、とても新鮮に感じました。また、患者さんへの予防的なケアや不安の軽減、関りの重要性を自身に落とし込むことが出来ました。1日という短い時間でしたが、貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

・病院の看護師さんより、患者さんとの距離が近いと感じました。患者さんは病院を退院して終わりではなく、その後の生活でも大変なことがたくさんあり、お家での生活を支えられる訪問看護師の仕事はとても魅力的に感じました。ご家族ともたくさんコミュニケーションをとられていたのも印象的でした。

・在宅でもヘルパーさんが24時間ついていたり、病院と同じようなケアを受けられることを知りました。病気の回復や生活をしていくためには、対象者だけでなくその家族に対するケアがとても大切で、今回はそれを目にしてより実感しました。また、対象者に対

して、何かを強制するわけではなく、その人の自立に向けて、その人らしく生活することを尊重していたのが印象に残っています。

・今回の1日職場体験で、病院の看護師とは違い、患者さん一人ひとりに時間をかけて接している場面を見たのが印象に残っています。その分相手の話をゆっくりと傾聴して体調を確認し、信頼関係があるんだと思いました。また、患者さんとその家族だけでなく、看護師同士の情報共有が常に行われていたり、記録に注意点が書いた付箋を貼ったりと、二重確認をすることで全員で患者さんの安全を守るという意識を感じました。どの看護師も反応があまり返ってこない方や、介助が大変な時にでも笑顔で温かく接している姿を見てより憧れの看護師像に近づけるために頑張ろうと思いました。

・訪問看護師という言葉しか聞いたことがなくて、どんなことをするんだろうとっていて、今日実際に近くで見学することで、訪問看護師について興味を持てたので良い時間を過ごすことが出来ました。

・利用者さんに質問したことに対して、返答がころころ変わってしまっていて、本当なのか間違っているかの判断が難しいと感じた。そこで利用者さんに聞くだけでなく、看護師側で確認できることはしっかりと確認し、現状を把握することの大切さを改めて感じた。また、私が当初イメージしていた怖さや接する上での難しさは感じられず、日々の服薬管理をしっかりと行い、症状をコントロールすることが大切だと解った。

・訪問看護を体験してみて、家でもチューブや排せつ援助をしているところを見れて、素早くしている姿を見れて勉強になりました。コミュニケーションでは、体調を聞くだけでなく、天気のことやデイサービスで、この日は祭りがあるということと話している姿を見て、楽しくコミュニケーションすることを学びました。ご家族との関り方やヘルパーさんとのように連携しているのか知ることが出来て、患者さんのことをよく考えて行動していることを感じる事が出来ました。

・訪問看護は一人の患者さんに時間をかけてご家族や本人とコミュニケーションをとりながらされていて素直に素敵だなと感じた。一人で急変時は対応されると聞いて、責任感を持っていることが大切だと解った。患者さんにやさしく声をかけたり、一人ひとりに愛をもって看護されている姿を見て、あこがれだなと感じた。

・利用者さんがご自身の自宅で安心・安全に過ごされる背景には、訪問看護の方々かのあらゆる面からのサポートがあるということを感じました。また、利用者さんの病状・生活形態・家族形態など利用者さんを取り巻く環境にしっかり目を向け、理解された上でそのかたにあった援助で療養生活をサポートされていることを学びました。今回この体験に参加できて、本当に良かったです。

・利用者の自宅に入って、様々な看護をするうえで信頼関係と、一人で行って決める力が必要だということを感じた。利用者さんはもちろん、ご家族へのケアや連携がなされてい

て、1家族ごとに会った看護が常に考えられていると感じた。利用者さんの体の状態から家族のこと、経済面や身の回りのことまで多職種の連携を図って支えていることがわかった。

・自宅でのリハビリは、利用者さんの今の状態とペースに合わせて個別性のある対応がされていました。質問される際には、利用者さんの生活に関連させて質問されていたので、そのおかげでよりお互いの関係を築けていけるのだろうと感じました。ケアマネジャーさんや看護師さん。ヘルパーさんなど関係するすべての人と協力し、利用者さんとそのご家族さんを支えているのだと学びました。

・利用者の性格や状態によって、どのような看護をするのかを考えることが重要に感じました。毎日の体温測定や体重を記録しておくことでそこから読み取れる利用者の状態を理解できることがわかり、学びとなった。

・訪問看護師さんの仕事に関して、感じたことが2つあります。一つは在宅看護は病院での看護とは異なり、健康課題を抱えている利用者さんだけでなく、そのご家族との関りがより深くなるということです。在宅看護では、同居や支援しているご家族会る利用者さんであれば、毎週お会いすることになるため、ご家族との関り、をより大切にする必要があると思いました。もう一つは、豊富な知識が大切だということです。訪問看護師さんが利用者さんとそのご家族とコミュニケーションをとっている際に、利用者さんのそのご家族も訪問看護師さんに健康状態や受診先に関する様々な相談をされ、それに対してわかりやすく回答している姿を見て、訪問看護師さんは、たくさんの知識が必要になる仕事だと感じ、その知識の豊富さから、利用者さんやその家族に信頼されているのではないかと思います。私も信頼される看護職者になりたいためこれからも様々なことを学び続けていこうと思います。

・今回の体験を通じて、病態に対する知識が必要不可欠だと感じました。また、信頼関係がなければその家の状況を知ることができないので、何回か訪問して信頼関係を築いていくことが大切だと思いました。介護サービスが何があるかも熟知しておくことが利用者さんの安心につながると感じました。

・訪問看護は病院よりも利用者さんやそのご家族と密に関わることができるというところが、とても良い点だと感じました。訪問看護師が来るのを心待ちにされていることが伝わってきて、私まで嬉しくなりました。また、ご家族との連携やケアもすごく大切だと理解することができました。一人ひとりの利用者さんに合わせた対応をされているのも印象的でした。

・病院よりもじっくり一人ひとりの患者さんに関わることができて、その患者さんに必要な看護をしっかりと提供することができるんじゃないかと感じました。訪看への理解が深まり、とても充実した体験でした。

④受入事業所側の感想

・同じ学校の1年生と2年生に実習に来ていただきました。カンファレンスでは、訪問看護師の在宅での役割や多職種連携について興味を持ち話し合えました。座学だけではイメージしにくかった訪問看護の現場を見て今後の学習に役立ててもらえるのではないかと思います。

・訪問看護への関心が高く、看護師等スタッフへ積極的に質問をされており、この1日で学びを深めようという懸命な姿を見て、こちらもこういった立派な看護師を育てる仕組みを構築したいと感じました。2から3年は病院でしっかり経験を積むとのこと、一人でも多くの訪問看護師が増えるきっかけづくりに今後のご協力させて頂ければと思います。

・1年生とのことですが、準備してきてくださり、積極的に学ばれ、終わりの挨拶時には学んだことを伝えてくださって、スタッフにとってもよい刺激になったと思います。

・1年生ということで、病院と在宅の違いについては難しかったかなと思いますが、看護の基本のところは共通していると思います。今後、病院実習に行かれた時には、患者さんは退院が目的ではなく、在宅で安定して生活することが目標であり、今回の体験での学びを活かしてもらえればと思います。

・お二人とも前向きに実習に取り組まれていました。キラキラ目を輝かせて話を聞いてくださる姿に、私自身も初心を思い出しフレッシュな気持ちにさせてもらいました。一人4件ずつ訪問してもらいましたが、独居、認知症、医療的処置のあるかた、コミュニケーションの重要性について学んで頂けたと思います。いつか訪問看護師になってもらえたらうれしいです。

・今回体験された学生さんは、1年生ということもあり、学内の実習も見学程度だったので、病院と在宅との連携の大切さなどは理解が難しいようでした。できれば各論の実習をされてから体験された方が学びが深かったのでは、と感じました。

・インターンシップ2名受け入れ、とても良い経験をさせていただきました。これから看護師を目指している方へ、訪問看護の楽しさ、面白さをどの程度お伝えできたかわかりませんが、将来の職場の選択肢の一つに入れてもらえたらという思いで関わらせていただきました。学生さんからも、看護を目指す思いを伺い、私たちも初心に戻ることが出来ました。

・基礎実習を終えられたあとの1日体験ということで、いろいろな視点からの質問や気づきがありました。こちらの実習の受け入れがないためこのような質問には良い刺激になりました。細やかな気づきが出来、質問や疑問など発言できる姿勢は、スタッフ・利用者・家族にとっても好印象でした。今回の機会でも事業所も多くのことを学びました。

・今回担当した学生さんは、もともと訪問看護に興味があり、体験してみたいという強い思いを持って臨んでいることを本人から聞きました。私自身、訪問看護師としてのやりが

いや楽しいこと、ジレンマとして感じることも難しいと思うことなどをお話しさせていただきました。

学生さんも興味を持って聞いてくださり、こちらとしても刺激になりました。

・学生さんの素直な意見や直球な質問をいただき、私たちも普段の看護を振り返る良い機会となりました。これから領域別の学習に進まれ、在宅看護論の学習時に少しでも繋がれたいです。夏の一番熱い時期の同行なので、春休みなどの方が学生さんの負担が少ないかと思いました。

・今回の体験に際し、明確な目的をもって取り組まれていました。訪問先では、療養者や家族とコミュニケーションもはかれており、積極的に体験されています。看護学生の訪問看護に対する興味関心が深まる機会になるのであれば、今後も受け入れさせていただきたいです。

・色々な診療科を経験してみたいという思いで体験にかられた学生さんでした。振り返りの中で、寝たきりの方へのケアばかりを想像していたけれど、元気に生活できるよう支えることも大切なんですね、という言葉があり、訪問看護師の役割についても知っていたのではないかと思います。

・1日体験のため、体験日の訪問利用者様の中で、いろいろな疾患、状態のところに出来る限り見学スケジュールを組み、訪問看護の特性、介護医療保険利用者、家族の状態、指示書など説明させていただきました。訪問時のマナーがよく、在宅と医療施設内の看護の違いを理解してもらえたと思います。体験された学生さんの希望内容があれば、今後の参考にさせていただきたいです。

・今回初めての受け入れで、移動が大丈夫かと心配しましたが問題なく行けて良かったです。

病院と在宅の違いを見てみたいと話されており、興味があるところを中心にみていただけたいと思います。

・体験後に感じたことや気づきなどを聞かせていただくことで、私たちが初心に帰らせてもらえます。学生さんの気づきで私たちも改めて気づくことができました。体験に来ていただきありがとうございました。

・1年生ですが、接遇に関してもしっかりされていて全く問題がありませんでした。1日という短い研修ですが、多くのことを感じ取っていただけたようです。次年度も受け入れを予定しています。よろしくお願いします。

・3人のご利用者と一緒に訪問しました。そのご利用者様へも笑顔で対応されていました。1年生のうちから在宅への目を向けていただいたことにととても感謝しています。病気だけでなく、環境や家族へのアプローチも大切であることを学んでいただけたようで、安心しました。

将来ご活躍されることを期待しています。

・対象の生活を重視した機能訓練や療養者とその家族への看護の実際を見学できました。担当者会議にも出席し、多職種連携の実際も体験できました。訪問看護への理解や興味が深まる機会となり、今後の学習に活かしていただけたらと思っています。

・当事業所自体が、学生を受け入れるのが初めてのことで、開催要項を作って準備していました。しかし、雨だったらどうしよう、など当日まで心配が尽きず、結果的に晴れて良かったが、日よけ対策を伝え忘れていた。今後は、テキストなども活用し、視覚的なオリエンテーションも行っていきたい。

・すごく前向きな姿勢を持っておられました。訪問の合間にも質問などしっかりご意見をいただきました。訪問では、ご本人だけでなく、その取り巻く環境、ご家族さん、制度の理解の重要性などを実際に体験していただき学びになったとのこと、大変良かったと思います。

・看護学生が在宅看護に高い関心をもって今日のインターンシップに臨まれたと思います。利用者の思いに寄り添う大切さや家族支援、他職種連携など、学んでもらえたと思います。「訪問看護、楽しかったです」の言葉を聞くことができ、私たちスタッフも嬉しい気持ちになりました。訪問看護の楽しさ、魅力が伝わってよかったです。

・一日一緒に回ってもらいましたが、訪問看護のリアルをお見せできたと思います。将来的に訪看をしたいという若い人と話せて楽しかったです。

⑤まとめ

学生から「病棟との違いや、家族看護の視点、コミュニケーション」に関する学びが多く寄せられ、また、「訪問看護に関して、たくさん学べた。関心を深めた。」という感想がほとんどの学生から聞かれ、まずは、事業目的の第1段階を果たすことができたと思われる。

また、学生と訪問看護ステーションの調整の際は、学生の希望を優先しつつ、初めて学生を受け入れる事業所を意識して調整した。受け入れステーションから「自分たちが初心に帰れた。逆に気づかされた。」という言葉が多く聞かれた。学生および訪問看護事業所双方にとって良い影響があり、継続実施する必要性があると考えます。